

表現する意欲と豊かな感性を育てる援助のあり方

～歌からイメージを膨らませて遊ぶ活動を通して～

沖縄市立泡瀬幼稚園

教諭 源河 雅代

I テーマ設定理由

毎日の生活の中で、子どもたちは、様々な感動に出会う。「すごい」「おもしろい」「不思議だな」などの思いが、心の中で膨らみ、その思いが何らかの形で表現され、その表現が先生や友達、周りに受け止められた時、表現の喜びを味わい、さらにいろいろなものへの興味へとつながり、感性と表現は豊かになっていくものと思われる。

少子化、都市化、情報化などの社会の背景は、子どもたちの発達に影響を及ぼしており、幼児の発達にとって最も大切な自我を形成する機会が減少してきているといわれている。そのため、自ら環境にかかわる力が伸びていない、友だちと協力して物事に取り組む力が弱い、人とのかかわりの中で自己を表出し、自我の形成を図っていくことが十分でないなどの傾向があるといわれている。

幼児期は人間形成の基礎が培われる重要な時期である。幼児が遊びの中で周りのものや人とかかわり、自己を表出し、そこから、好奇心を育み、知識を蓄えるための基礎を形成すること、また、ものや人とかかわりにおける自己表出を通して自我を形成するとともに、自分を取り巻く社会への感覚を養うことが幼稚園教育の役割である。

幼稚園教育要領によると「表現」の領域は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と示されている。そのねらいは「美しさに対する感性」「感じたことや考えたことへの表現意欲」「イメージ豊かな楽しい表現」の3点であり子ども自身が自発的に活動し、表現する楽しさ、喜びを味わうということが大事にされている。表現する楽しさ、喜びは自分の内面を認められる楽しさ、喜びであり、それを味わうことは自己を表現する意欲、自己実現への意欲が培われると考える。

本園の園児の実態を見てみると、明るく元気な子

が多いが、自分の思いをうまく表現することができず恥ずかしがっている子、戸惑っている子、自分の思いを表現するが、相手の思いに気づかない子もいる。また、幼児一人一人に丁寧にかかわることにより、内に秘めた思いに気付くことも多い。

これまでの保育を振り返ってみると、表現活動を通して、自分の力を十分に自己発揮する姿が見られるようになったり、徐々に自分なりに表現することができるようになったことが自信となっていきいきと園生活を楽しむ姿がみられるようになったりした。反面、遊びや生活の中で、表現が切り離されたものとなっていたり、さまざまに交じり合った表現を十分に発展させることができず、子どもたちのイメージを膨らませたり、一人一人のよさを十分に発揮させることができなかったなどの反省があった。

そのことから、表現活動のあり方を改めて見直し、歌を教材として、表現することを楽しむことができるための援助を探っていきたいと考える。歌を通して、幼児は様々な世界を味わい、様々な感情を持ち、人と人とかかわりを介在として、いろいろな体験をしていくことができる。歌を聴いたり、歌ったりすることを通して自然な形で言葉を獲得し、歌詞の意味を想像することでイメージが豊かになっていく。また、歌から膨らませたイメージを、動いたり、描いたり、作ったり、演じたりする活動へとつなげていくことによって、表現する楽しさが広がり、豊かな感性が育まれていくと思われる。

そこで、遊びや生活の中で歌を聴いたり歌ったりすることを楽しんだり、先生や友達と感動を共有し合いながら膨らませたイメージを自分なりに表現することによって、表現する楽しさを味わい、感じたことや考えたことを自分なりに表現する意欲が育まれるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す幼児像

- 自分なりの表現を楽しみ、いきいきと活動する子
- 先生や友達と感動を共有しながら表現することができる感性豊かな子

III 研究目標

歌からイメージを膨らませて遊ぶ活動を通して、表現力・感性を豊かにするための指導・援助のあり方をより一層充実させる。

IV 研究仮説

1 基本仮説

歌からイメージを膨らませて遊ぶ活動を通して、自分なりに表現する楽しさを味わうことによって、表現する意欲、豊かな感性が育まれるであろう。

2 具体仮説

- (1) 幼児の発達の特性と表現の意義を捉え、環境構成を工夫することにより、幼児は、感じたり、考えたり、イメージを膨らませていくことができるであろう。
- (2) 歌を聴いたり、歌ったりすることを通して、先生や友達と心を通わせ合い、イメージを共有することによって、豊かな感性が育つであろう。
- (3) 歌から膨らませたイメージを描いたり作ったり動いたりして遊ぶことを通して、表現する楽しさを味わい、自分なりに表現する意欲が育つであろう。

V 研究構想図

次ページ

VI 研究内容

研究内容 1

1 幼稚園教育要領「表現」についてのとらえ

(1) 表現とは

自分が心の中に感じることを、思うことを心の外の何かに置き換えて表すことである。日常生活の中で、誰もが、表情・身振り・言葉など、気持ちを表しながら生活している。表現は特別の活動に限定されるものではなく、日常生活の中でいつも何気なく繰り返されている行為である。表現によって、人は感じることを伝えることができる。

表現は思いを満ちし、願いをかなえる行為である。このことから、表現は自己実現、自己充足の行為であるといえる。

(2) 幼児の表現

表現に関する人の行為には、意図や目的なしに表れる表出と呼ばれるものと、意図や目的を持って表れる表現とがある。幼い赤ん坊の場合は、全てが表出であるが、次第に表現と呼ばれる表しが見られるようになる。幼児期には、人とのかかわる中で、自分の感じることを相手に伝えるために、目的を持った表現をするようになる。そして、その表現が自分の意図したものとなるように、どういう手段で表すかと、内容や方法についても自覚的な表現をするようになる。その中で、さまざまな表現の手段を習得し、そうすることで表現の幅を広げていく。幼児期は、表現という存在と表現という行為を学んでいく時期であり、自分の表しの行為を社会化していく時期である。

表現という営みは、一人一人がそれぞれに様々に感じ、考えるところから生ずる活動である。表現を交し合うことによって人間としての生活を成り立たせ、豊かにしていくのである。内面で感じられていることは、表現されることによって、自分にとっても他者にとっても明らかになる。内面の世界は表現する過程で広がったり、確かになったりする。そのことから、幼児期の子どもたちの感じたり考えたりする行為は表現によって育っていくととらえられる。表現の豊かさは、心の豊かさの反映であり、表現の育ちは、心の育ちであるといえる。

V 研究構想図



(3) 感性とは

感性とは、現代国語辞典によると、「感覚刺激を受け入れたり、反応したりする能力」とある。「なんだろう、おもしろそうだな」などと気付くことができ、主体的にかかわるなかで「不思議だな、きれいだな」などと思う心だととらえることができる。感性とは、さまざまな価値あるものに気付き、感じる心のできる心の働きである。

豊かな感性とは、幼児が自分のまわりのいろいろな世界や、周囲の人とかかわるなかで、さまざまな価値あるものに敏感に気づき、感じる心のできる心の働きである。

(4) 幼稚園教育要領「表現」のねらい

幼稚園教育要領、「表現」の領域は「感じことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性と表現する力を養い、創造性を豊かにする」という観点から示されている。幼児は毎日の生活の中で身近な環境にかかわりながら、様々なことを感じ、心を動かしている。そして、自分なりのイメージを言葉で表現したり、描いたり作ったり、遊びに使ってみたりと様々な表現を楽しんでいる。

自分自身のイメージを表現する楽しさを味わい、充実感を味わうことによって、表現する意欲が育ち、先生や友達、周りの人と表現の楽しさを共有することによって、いろいろな物の見方、感じ方への気付きが育ち、さらに感性が豊かになっていくのである。

① イメージと表現

保育用語辞典によるとイメージとは「過去の経験の中で記憶していることを思い出して再現することである」と述べられている。幼児期は具体的な何かを手がかりにもの考える時期だとみなされている。表現はイメージに基づいたものであり、表現する力を育てる上で、イメージの豊かさは欠くことができないものである。教師は、幼児がさまざまなイメージを持てるように援助していくことが必要であり、幼児のイメージ作りをどう

援助するかが、表現活動のもとになる。幼児はそれぞれ異なったイメージを持っており、遊びの中で表現し合うことを通して自分のイメージを相手に伝えたり、また、相手のイメージを知ることができる。お互い刺激しあうことにより、イメージが共有されたり、発展されたりして表現は豊かになっていくといわれている。

② 創造性とは

保育用語辞典によると創造性とは「新たな考えや物を造りだしたり、高度な問題を解決するための能力のことである」と述べられている。幼児は生活の中でさまざまな創造性を発揮している。大人にとってはささやかな作品であっても、子どもの大きな感動や工夫が込められていることが大切なことであり、援助の際にも出来栄にこだわることではなく、楽しんだり、工夫したりするという過程を丁寧にくみとることが大切である。

(5) 表現を育てる教師の役割

幼児は、さまざまなものが、さまざまに混じりあって表現しようとしている。表現活動において、形式的に分化した表現活動の側からだけ保育を発想するのではなく、表現に向かう心情の側から保育を発想することが必要であるといわれている。

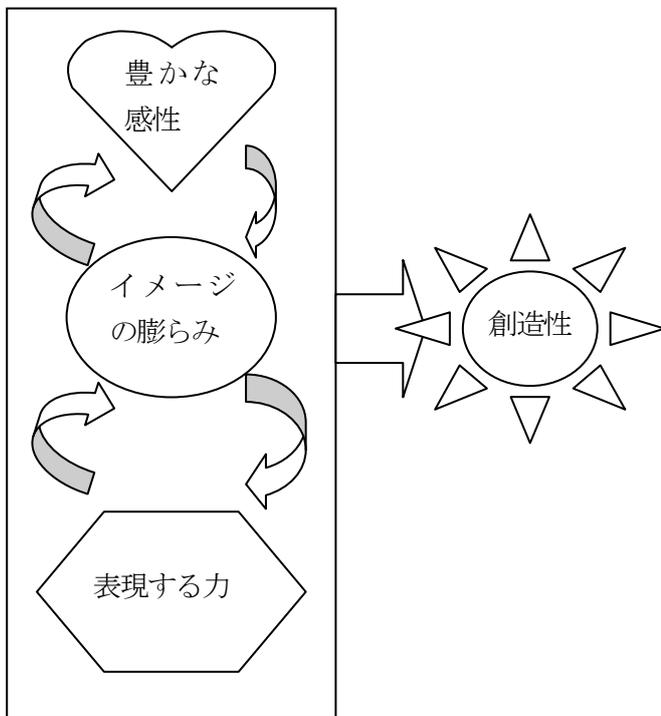
幼い子どもの場合、気持ちの表れは一方的なことが多い。しかし、その気持ちの表れが受け取られ、読み取られることにより、次第に、自分の気持ちを意識的、意図的に、そしてより適切に表すことができるようになる。

子どもの表現を丁寧に受け止めて、できるだけ、その子の表したいことを読み取ろうとすることが、大切である。

自分の表現を教師や友だち、周りの人々と共感し合う、そういう体験の繰り返しの中で、子どもは表現する楽しさ、充実感を味わう。そして、表現を交わしあうことによって、豊かな感性が育っていくのである。

自分の表現が周りに受け止められることによって、子どもは表現への意欲を高める。表現を受け止められることは自分自身の存在を認められた体験になり、その満足感、充足感、同時に、表現への安心感ともなる。表現を受け止められることは、次の表現意欲へとつながっていく。そして、教師が子どもの表現を誘い出すには、周りの環境に対する新しい視点、新しい気づきを示し、子どもたちの心の働きを刺激し、環境に対する新しいかかわりのきっかけをつくるのが大切である。

(感性と表現の相互関係)



2 幼児の実態把握アンケート

(1) アンケート調査の分析と考察

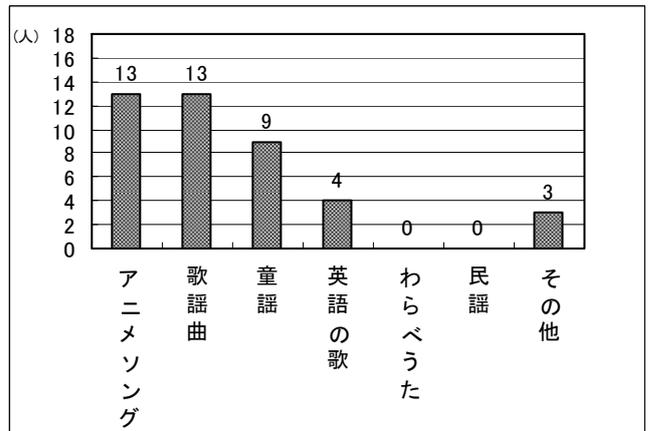
① 調査目的

幼児が、家庭でどのように歌に親しんでいるかを調査し、本研究の資料として役立てる。

② 調査方法

- 対象：泡瀬幼稚園4組30名の保護者
- 調査日：平成18年6月16日(金)
- 回収率：60%

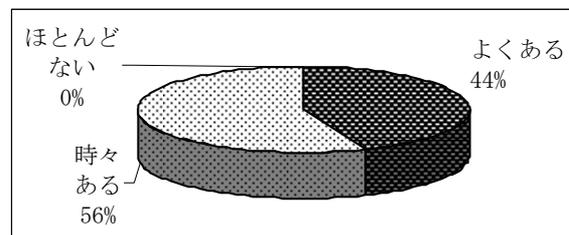
質問1 ご家庭で、お子さんは主にどんな歌を歌いますか。



(考察)

テレビのアニメソングと歌謡曲が72%と最も多い。歌が、幼児の言葉や思考、感情を育てていく面を考えると、童謡やわらべうたに親しむ機会をもつと大切にする必要があると考える。

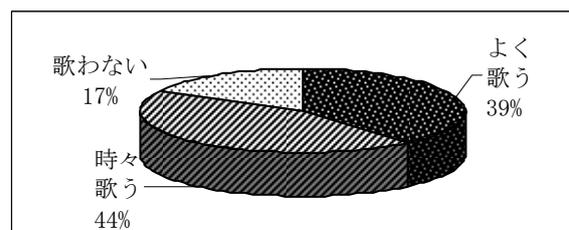
質問2 お子さんと一緒に歌を歌ったりしますか。



(考察)

歌と一緒に歌うことによって、心が通いあう。どの家庭でも一緒に歌う機会があるのはよいことだと思う。

質問3 お子さんは幼稚園で歌った歌を家で歌ったりしますか。



(考察)

よく歌う、時々歌うを合わせて83%である。幼

幼稚園で歌うことを楽しんでいる子は、家庭でも自然に口ずさんでいると思われる。

- ☆ 回収率が 60%と低かった。今後、保護者会などで、子どもの成長の中で及ぼす歌のよさなどを伝えていく必要を感じる。

3 環境構成の工夫

幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方向的に教えられて身につけていく時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して人間形成の基礎となる豊かな心情、物事にかかわろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度などが培われる時期だといわれている。

学校教育法第77条には、「幼稚園は、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする」とされており、幼稚園教育は、環境を通して行うことが基本であるといわれている。したがって、幼児期の教育は、生活を通して、幼児が周囲の環境から刺激を受けて、自ら興味を持ってかかわることによって様々な活動を展開し、充実感を味わうことが大切である。

(1) 表現と環境とのかかわり

- ① 表現は、自分の心の中の世界を外に置き換える営みである。心の中の世界はかかわる環境によってつくられていく。周りの事物・事象との触れ合いが、子どもたちの心を動かし、子どもたちにさまざまなことを感じさせ、考えさせる。環境は子どもたちの豊かな感性を育て、表現活動への刺激となる。
- ② 表現は周囲の人に受け止められることによって大きな意義を持つ。教師は子どもたちの表現を受けとめるという環境である。教師と表現を交し合うことにより子どもたちは、自分自身を肯定したり、否定したり、修正したり、探り出しながら育っていくのである。また、教師は子どもたちのモデルであり、教師の存在が、遊びへのきっかけとなることもあり、教師は、子どもにとって重要な環境である。
- ② 絵本や紙芝居、音楽など、子どもたちの周

囲に日常的に準備されている環境が子どもたちの内面を育てる。

- ③ 表現のための用具があれば、子どもたちはそれを使って表現的な活動を始める。子どもたちの状況を見ながら、活動の発展を予測し、材料や道具の準備をすることが必要である。

(2) 環境の構成

幼児は周囲の環境とかかわりながら遊びを展開していくために、教師は子どもがかかわりたくなるような環境を用意することが大切であり、活動のテーマに即した環境構成の工夫が必要である。

環境の構成とは、幼児をとりまく世界を教師が教育的価値をもって構成することであり、幼児の活動を見通して構成することである。

しかし、教師がすべて環境を準備設定するのではなく、幼児が主体的に環境にかかわり、想像力をつかって経験できることが必要である。幼児が自ら工夫し、環境を構成していくように、幼児の発達に応じて、かかわることができる部分を用意し、役割を与えることが大切である。

〈幼児が表現したくなる環境〉

- ・表現のきっかけやテーマにつながる経験ができること。
- ・表現の素材が身近にあること。
- ・周囲の大人が子どもの表現を丁寧に受け止めること。

研究内容 2

1 幼児の音楽的表現

(1) 聴く力の発達

母親の胎内にいる頃より、体内音や外界音を聴いているといわれている。出生後、直ちに神経組織の発達は始まり、5歳児から6歳児になる頃には約80%くらいといわれており、かなり成人の能力に近づいている。この時期に言葉かけや音、音楽による心地よい刺激を与えることは重要で、刺激を受けることにより脳の神経細胞を発達させ、情報を蓄積し、言葉や音に対する理解や音楽に対する感覚を深めていくとい

われている。

(2) 発声の発達

幼児の発声器官や肺は発達途上であり、体が成長するに伴って、発声器官は発達し、肺活量も増え、聴覚の発達と相まって少しずつ音の高低や強弱・長短のコントロールができるようになっていく。発育の途中にある幼児の声帯は、大人と比べ弱く傷つきやすく、どなったり、声を張り上げたりする無理な発声を続けることは、声帯に悪影響を及ぼす。美しい歌声、心に響く歌声を聴き、感じることによって、幼児は発声の仕方をコントロールしていくのである。

(3) 音楽能力の発達

体の成長とともに運動能力も発達し、音楽のメロディーやリズムに合わせて体を揺さぶったり、ロズさんだりし、肩や腕、手の発達にもなって、物をたたいて音を出すことを楽しみ、楽器に興味を示すようになる。また足腰が発達してくると、踊るなど、体全体で音楽のイメージを表現できるようになる。

5、6歳になると、音程やリズムも正確になってきて、歌詞の内容に共感した歌いかたもできるようになってくる。また、みんなと一緒に合わせて歌ったり、楽器を演奏できるようになり、また、友だちの歌や演奏に興味を持って聴くことができるようになる。

(4) 歌を聴いたり歌ったりする活動

① 聴く活動

音楽行動のうち、聴くという行為はもっとも早い時期からできるものである。

幼児の発達的特性を捉えて適切な音楽的経験や活動、環境を与えれば、幼児の音楽的諸感覚の発達、表現の発達、情緒的・社会的発達を促すことが可能である。

聴くという活動は内面のものであり、はっきりと形で表れてくるものではないが、歌ったり、動いたり、作ったりという表現活動を行うためになくてはならないものである。

② 歌う活動

幼児にとって歌はもっとも身近で直接的な

音楽表現である。年齢が低いほど、歌うことへの心の構えが少なく遊びとしての要素が強い。幼児が歌う時には、自然に身体が動いたり、言葉にリズムをつけて歌へ発展するなど、歌う活動には様々な要素が絡まりあっている。生活の中で様々な形で歌を楽しむことで表現やコミュニケーションの手段として歌を取り込み、歌う技術も習得していく。

〈歌う楽しさの要素〉

- 歌うと気持ちがよいのは発声そのものによる快感が基になっており、声を出すそのものに楽しさを感じる。
- 言葉の調子やごろのよさを楽しみ、言葉のリズムを楽しむ。
- 歌詞を理解し、情景を想像し、歌の世界に入りこんで、想像の中で遊ぶ楽しさを味わう。
- 歌や遊びを仲間と共有することによって、心の触れ合いを楽しむことができる。幼児の場合、母親との関係で始まり、しだいに周囲の大人や同年齢の友だちとの関係にひろがっていく。歌うことや歌に伴う遊びを通して、周りの人との心の触れ合いを楽しむことができる。

2 教材の工夫

教材研究では、教師自身が歌に共感して表情豊かに歌えるようにすること、そして、その歌の特質を見抜き、展開の可能性をさぐり、さらにその歌の特質と幼児の発達段階を考慮して活動のねらいと内容を設定することが必要である。

(1) 教師自身が歌に共感して表情豊かに歌うという工夫が必要である。

(2) 歌の特質を見抜き、展開の可能性を探る。

① 視聴覚教具を用いてより楽しくうたう。

歌詞の内容に基づいてペープサート、うた紙芝居、パネルシアターなどを作り、それを見たり動かしながら歌うと、より楽しく歌える歌がたくさんある。

(ペープサート)

割り箸などの棒につけただけで簡単に

人形を作ることができ、自分で作った人形ですぐ遊ぶことができる。教師のペープサートを見て、歌の世界を楽しんだり、幼児自身が楽しく取り組むことができる。(うた紙芝居)

歌詞の内容を理解したり、情景を思い浮かべながら歌を聴いたり歌ったりすることができる。絵と文字を書いた紙と一緒に貼っておくことで、文字への興味にもつながる。

(パネルシアター)

演じ手である教師と、観客である子どもたちが、表情を表し、受け止め、言葉を交わしあいながら、楽しむことができるので、歌の世界を楽しみながら、触れ合い、コミュニケーションを深めることができる。

- ② 少数の楽器を用いて、より楽しく歌う。
楽器を加えることにより、歌の持ち味が生かされ楽しく歌えるものもある。歌を主体にする場合には楽器の数は少ない方がよい。
- ③ 身体の動きを入れて、より楽しく歌う。
動きを誘う要素がその歌にないかを検討し、歌詞の言葉の意味から身振りをつけたり、リズムに合わせて動作をつけることにより、楽しく歌える歌もある。
- ④ 歌詞の一部を替え歌にして、より楽しく歌う。替え歌にすることにより、より楽しく歌えたり、活動内容に発展性をもたせることができる場合もある。

研究内容 3

1 幼児の表現活動について

幼稚園教育要領解説によると「幼児が自分の気持ちを表す方法は未分化である。造形的な手段、音楽的な手段を用いながら、それに限定しないで、自分の意図にできるだけかなうさまざまな手段がある意味思いつくままに手当たり次第利用する。あるいは表しきれない部分を他の手段で補おうと

する。幼稚園での指導は、手段の分化されない未分化な表現活動を受け入れるところから始まる。」と述べられている。

子どもの表現活動は今まで経験した遊び体験の蓄積や教師の模倣、また配置された環境、援助の下に行われることで、新しい発想が生まれ、創作活動へと広がっていく。そして、その活動に子どもが興味関心をいだき、「やってみたい」という願望が「やってみよう」という意欲へとつながる。身体、言語、造形などの表現から歌のイメージを膨らませる手立てとすることができる。また、それらで表現して遊ぶことを通して、表現する楽しさを味わい、豊かな感性が育まれていくのである。

(1) 身体表現

子どもたちは音楽を聴いたり、歌ったりしながら、頭の中に描かれているイメージを身体を動かして表現する。子どもたちがどんなイメージをしているのかを引き出し、受け止めながら援助していくことが必要である。

(2) 言語表現

歌の歌詞や情景などを話し合ったり、お話作りをしてイメージを広げる。また、替え歌作りでは、歌詞の一部を替えることにより、新しいイメージが作られる。

子どもたちが思い浮かべたイメージから替え歌を作るとき、教師はその言葉を整理してあげたり、歌いやすいような言葉でアドバイスしてあげたりするやり取りの中で、言葉で表現する力を養っていくことへもつながっていくことになる。

(3) 造形表現

歌の情景を絵に描いたり、作ったものを用いて遊ぶことを通して歌のイメージを広げていく。ペープサートなど、目で見、耳で聴くことにより、イメージが膨らみ、自分でも絵に描いたり、動かしてみたいくなる。描いたり作ったりしたもので、教師や友だちと遊ぶことによって、共感も増し、心を通わせあいながら遊ぶことができる。

Ⅶ 指導の実際

1 活動計画

回	月 日	ね ら い	活 動 内 容
1	5月25日 (木)	○動物の鳴き声を想像しながら 楽しく歌う。	♪みんなであたっている ・ペープサートを見る。 ・ペープサートを見ながら楽しく歌う。
2	5月26日 (金)	○身体表現や、ペープサートを 楽しむ。	♪みんなであたっている ・身体表現をしながら楽しく歌う。 ・ペープサート動かしながら歌ったり、見ながら 歌ったりする。
3	6月1日 (木)	○うた紙芝居を見ながら情景を 想像して楽しむ。 ○いろいろな動物の替え歌を楽 しむ。	♪わくわくタイム ・身体表現しながら楽しく歌う。 ♪ヤンバルクイナのあかちゃん ・歌紙芝居を楽しむ。 ・動作を入れて楽しく歌う。 ♪みんなであたっている ・いろいろな動物の替え歌を作り、身体表現しな がら楽しく歌う。
4	6月2日 (月)	○情景を心に描きながら歌う。 ○替え歌を楽しむ。 ○虫歯予防に関心をもつ。	♪やんばるクイナの赤ちゃん ・身体表現しながら楽しくうたう。 ♪みんなであたっている ・いろいろな動物を出し合って歌う。 ♪ねずみのはみがき ・虫歯予防の話聞く。 ・手遊びを楽しむ。
5	6月3日 (火)	○情景を心に描きながらやさし く歌う。	♪やんばるクイナのあかちゃん ・身体表現しながら歌う。 ♪あめふりくまのこ ・歌紙芝居を楽しむ。
6	6月4日 (水)	○時の記念日について関心をも つ。 ○時計の針の音をイメージしな がら楽しむ。	♪ヤンバルクイナのあかちゃん ・身体表現しながら歌う。 ♪とけいのうた ・カスタうちしながら歌う。
7	6月14日 (水)	○お父さんの姿を思い浮かべな がら歌う。	♪すてきなパパ ・「皆さんのパパはどんなパパ？」自分のお父さ んを思いうかべながら歌を楽しむ。 ・父の日のプレゼント作り
8	6月19日 (月)	○ペープサートを見ながら歌の 世界を想像して楽しむ。	♪そうだったらいいのにな ・ペープサートを見ながら、楽しく歌う。

9	6月21日 (水)	○ペープサートを見ながら歌うことにより、イメージを膨らせる。	♪そうだったいいのにな ・ペープサートを見ながらみんなで楽しく歌う。 ・「そうだったらいいいのにな」という夢を思い描き、思い描いた夢をみんなで出し合ってみる。
10	6月22日 (木)	○「4組のおへやが青い海だったら・・・」という共通のイメージを持つ。	・「4組のおへやが青い海だったら・・・」という想像から、4組のへやを海に見立て、「何になって・何をしたいか」「どんな生き物がいて・何をしているか」など子どもたちの発想を引き出していく。
11	6月26日 (月)	○海をイメージしながら、歌ったり、踊ったり、壁面作りをして楽しむ。	♪海、カニ、貝、タコ、カモメ ・みんなで楽しく歌いながら踊る。 ・魚、貝、カニなど、自分が好きな海の生き物を描いたり作ったりして、壁面作りをする。
12	6月27日 (火)	○壁面作りをしながら、イメージを膨らませる。	♪海、カニ、貝、タコ、カモメ ・みんなで楽しく歌いながら踊る。 ・自分の絵を描いて切り取り、壁面の船やクジラなど、好きな場所に貼る。
13	6月28日 (水)	○お面を作り、海の生き物になりきって、踊りを楽しむ。	♪海、カニ、貝、タコ、カモメ ・「カニ、貝、タコ、カモメ」の中から、好きなものを選び、お面を作りをする。 ・お面をかぶり、生き物のグループごとに、みんなの前で踊る。
14	6月29日 (木)	○「4くみのおへやが海だったらいいのにな」という自分のイメージをペープサートで表す。	・「4組のへやがうみだったら・・・」という自分のイメージを絵に描いてペープサート作りをする。
15	7月3日 (月)	○ペープサートで替え歌を楽しむ。	・「そうだったらいいいのにな」の曲に合わせて、替え歌をペープサートで発表する。
16	7月5日 (水) 公開検証保育	○歌ったり踊ったり、ペープサートをすることによって、楽しさを共有する。 ○自分のイメージを表現する楽しさを味わう。	・「ちょっぴんかにさん」のパネルシアターをみる。 ・海は全員で歌いながら踊り、生き物のグループごとに皆の前で歌ったり踊ったりする。 ・「そうだったらいいいのにな」のペープサートを皆の前で発表する。 ・一緒に歌いながら、友だちのペープサートを楽しむ。

2 活動の流れ

	○幼児の活動 ☆姿・ことば	◎教師の援助・配慮
1	<p>○「♪わくわくタイム」を歌う。</p> <p>○動物の絵のペープサートを見る。 ☆「ニャー、ニャー」「ブーブー」と鳴き声のまねをする子もいる。</p> <p>○「♪みんなで歌っている」のペープサートを見る。</p> <p>○教師の問いかけに、「ピョピョ」など鳴き声の所で声を出している。</p>	<p>◎心弾む楽しい雰囲気始めることができるようにする。</p> <p>◎ペープサートを見せながら「何て鳴くのかな」と問いかけ、子供たちの声を引き出す。</p> <p>◎「何て鳴くんだっけ？」と子供たちの声を引き出しながら歌うことによって歌の世界を一緒に楽しめるようにする。</p>
2	<p>☆「今日は何のお歌持ってきたの？」</p> <p>○「♪みんなでうたっている」を身体表現しながら歌う。 ☆「かえるさんと、ぶたさんもっとやりたい。」</p> <p>○みんなの前でペープサートをしたり、友達がするのを見たりして楽しむ。 ☆「おさるさんやりたい。」 ☆「ぞうさんやりたい。」</p>	<p>◎どんな動作がいいか、子供たちの思いを引き出すことでイメージを膨らませながら歌うことを楽しむことができるようにする。</p> <p>◎自主活動の時間にもペープサートを使って遊んでいいことを伝え、「やってみたい」という気持ちを大切にする。</p>
3	<p>○みんなで耳をすまし、いろいろな音が聞こえてくることを感じ合う。</p> <p>○ヤンバルクイナの話聞く。 ☆「読谷にはいないの？」「福岡にはいないの？」「内地にはいないの？」</p> <p>○「ヤンバルクイナのあかちゃん」のうた紙芝居を楽しむ。</p> <p>○身体の動きを入れて楽しく歌う。</p> <p>○A子とR子が作ったペープサートを見る。</p> <p>○「みんなでうたっている」の歌の中に出てきた動物の他に、どんな動物がいいか出し合う。 ☆「こあら」「まんぐーすー」</p> <p>○どんな鳴き声や動作がいいか出し合いながら歌う。 ☆「かたつむりはニョキニョキだよ」と指で目玉を作ったりしている。</p>	<p>◎一斉に静かにし、静かになったら周りからどんな音が聞こえてくるか、みんなで感じ合うことができるようにする。</p> <p>◎「キョキョキョ」とやんばるクイナの鳴き声の真似をし、子供たちの興味を引きつける。</p> <p>◎情景を思い浮かべながら見ることができるよう優しくうたう。</p> <p>◎A子とR子が作ったペープサートを歌いながら紹介する。</p> <p>◎子供たちが出した動物を全部紙にかいていく。</p> <p>◎歌いながら、「どんなして鳴けばいい？」「うさぎは鳴くかな？」とアイデアを引き出していく。</p>
4	<p>○「ヤンバルクイナのあかちゃん」を身体表現しながら歌う。 ☆「虫見に行ったとき、やんばるクイナの写真があったよ。」</p>	<p>◎明るい声で歌うことができるように声かけをする。</p>

4	<p>○「みんなであたっている」の替え歌を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R子が作ってきた4匹の動物のペープサートを紹介する。 ・ R子のペープサートでみんなで替え歌を歌う。 <p>○虫歯予防デーの話聞く。</p> <p>○「ねずみの歯ブラシ」の手遊びをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恥ずかしがっているR子に代わって紹介し、R子のアイデアを知らせることで、他の子ども、「やってみよう」という気持ちを持てるようにする。 <p>◎ねずみのパクパク人形を使い、虫歯予防に興味を持たせることができるようにする。</p>
5	<p>○「あめふりくまのこ」のうた紙芝居を楽しむ。</p> <p>○「みんなであたっている」の替え歌を楽しむ。</p> <p>☆「作ってきたよ。」</p> <p>☆「明日もさせてよ。」</p>	<p>◎やさしく語りかけるように歌う。</p> <p>◎自分で作ったペープサートを演じてもらう。次回へとつなげていけるように言葉かけをする。</p>
6	<p>○「ねずみのはぶらし」の手遊びをする。</p> <p>○当番がカスタネットを配ると、それぞれ好きなように鳴らしている。</p> <p>○カスタネットの打ち方の話をきく。</p> <p>○カスタネットを打ちながら楽しく歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「コチコチカッチン」と時計の音の部分でカスタネットを打つ子、4拍で打つ子、曲に合わせてそれぞれリズムを取りながら楽しんでいる。 <p>☆カスタネットを見て、「かえるの口に似ている」という子がいたので、鳴き声の部分をカスタネットを打ちながらみんなで「かえるの歌」を歌う。</p>	<p>◎カスタネットに初めて触れる子もいるので、カスタネットの音を自分なりに楽しませた後に、カスタネットの持ち方、打ち方を知らせる。</p> <p>◎時計の音の部分でカスタネットを鳴らしながら範唱する。</p> <p>◎それぞれ好きなリズムの取り方で楽しんでいる姿を大切にします。</p> <p>◎子どもの発想を大切に、取り入れてみんなで楽しむことで、自分の感じたことを表現する楽しさを味わうことができるようにする。</p>
7	<p>○手遊びをする。「茶々つぼ」</p> <p>○「とけいのうた」に合わせて手作りマラカスを振りながら歌う。</p> <p>○「すてきなパパ」の歌をうたう。</p>	<p>◎自主活動の時間に廃品で作っていたマラカスを紹介する。</p> <p>◎優しく語りかけるように歌って聞かせる。</p> <p>◎「みんなのパパはどんなパパ」とそれぞれ自分のお父さんを思い浮かべることができるようにする。</p>
8	<p>○「そうだったらいいのにな」のペープサートを楽しむ。</p> <p>○ペープサートを見ながら「そうだったらいいのにな」を楽しくうたう。</p> <p>○カスタネット、鈴でリズム打ちしながら楽しくうたう。</p> <p>○歌遊びをする。</p> <p>「さかながはねた」「かにのうえきやさん」</p> <p>「かに いか ちょうちんあんこう」</p> <p>☆「はねる魚って、とびうおだよ。」</p>	<p>◎子どもたちがワクワクする気持ちになるように歌い方を工夫する。</p> <p>◎「そうだったらいいのにな」の部分は手拍子を打って、楽しく歌えるようにする。</p> <p>◎子どもの声から「さかながはねた」を「とびうおがはねた」に替えて手遊びをしてみることで、子どもの発想を大切にします。</p>

8	<p>☆「ちょうちんあんこうってさ、こんなして毒出すんだよ。」と真似して見せる子もいる。</p> <p>○身体表現をしながらうたをうたう。 「そうだったらいいのにな」</p> <p>○歌紙芝居を楽しむ。 「ざんぶりこ」</p>	<p>◎どんな動作がいいか、子どもたちの声を引き出して、取り入れながらうたう。</p>
9	<p>○絵本の読み聞かせを楽しむ。 「スイミー」</p> <p>○海や水族館にいったときの思い出、知っていることなどを話し合う。</p> <p>☆「海いったことあるよー。」</p> <p>☆「さかな釣ったことあるよ。」</p>	<p>◎海をイメージし、イメージが膨らんでいくような、歌い方、読み聞かせの仕方を工夫する。</p>
10	<p>○手遊びをする。</p> <p>○4くみのへやが海だったら、 「どんなことして遊びたいかな。」</p> <p>☆「くじらにのりたい。」</p> <p>☆「くもを食べてみたい。」</p> <p>☆「バーベキューがしたい。そして音楽をかける。」</p>	<p>◎子ども達の思いに共感しながら、一人一人の言葉を大切に受け止めるようにする。</p> <p>◎どのようにしたらへやが海のようになるか、子ども達のアイデア、願いを引き出すようにする。</p> <p>◎月曜日はみんなでおへやをうみにしよう」と提案し、何が作りたいか考えてくるように伝える。</p>
11	<p>○手遊びをする。「さかながはねた」</p> <p>○製作をする時の約束を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーカーやのり、はさみの使い方 ・片付けの仕方 <p>○自分の好きな海の生き物を絵に描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さかな、くじら、うみへび、ひとで、 ちょうちんあんこう、かに、かめ 等 <p>○描いたものをはさみで切りとり、自分が張りたい場所を教師に伝えて貼ってもらおう。</p> <p>☆「本マグロだよ。」</p> <p>○「海」「タコ」の遊戯をする。</p>	<p>(準備するもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚の型紙〈3種類〉 ・画用紙〈大・中・小〉 <p>◎材料や用具を大切に使うことを知らせる。</p> <p>◎描きたいものに合わせて、画用紙の大きさを選ぶように知らせる。</p> <p>◎できあがった絵を、みんなに紹介したり一人一人声をかけていくことで、表現する楽しさが味わえるようにする。</p> <p>◎自分が好きな場所に貼ることで、海のイメージを楽しむことができるようにする。</p> <p>◎へやが海のようになってきたので、海にいる気持ちで踊ってみるよう声をかける。</p>
12	<p>○遊戯をする。「海」「タコ」「貝」</p> <p>○4組の海でやりたいことをやってみよう。</p> <p>☆「どんなして船にのるの?」「どんなして泳ぐの?」と不思議そうであったが、教師が壁面で、やってみようを実現している様子を見て、自分もやってみようとはりきっている。</p> <p>○自分の絵を描き、切り取る。</p> <p>○切り取った絵を貼りたい場所を教師に伝える。</p>	<p>◎4くみの海でやってみようをやってみよう、提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の絵を壁面の船にのせたり、泳いでみえるようにやってみる。 <p>◎切り取った絵をどこに貼りたいか、子どもたちの声を丁寧に受け止め、壁に貼ることによって、子どもたちの思いを実現させる。</p> <p>◎壁面に貼られている絵を見ながら、子どもたちの夢が膨らんでいく言葉かけをする</p>

13	<p>○「タコ、カニ、貝、カモメ」のお面作りをする。 ☆「虹色の貝作っていい？」 ☆「タコ作る」「やっぱり貝にしようかな」「カニがいい」といろいろ作りたくて迷っている子もいる。 ☆作ったお面をかぶりながら、船の絵を描いたりして楽しんでいる子もいる。</p>	<p>◎見本のお面を見せ、「何に見えるかな」と問いかけながら、子どもたちが「作ってみたい」という気持ちになるようにする。 ◎作るお面の種類ごとに集まって友達が描いているのを見たり、会話を楽しみながらお面作りができるようにする。</p>
14	<p>○「4くみのへやが海だったら・・・」自分のイメージを絵に描いてペープサート作りをする。 ☆「くじらにのりたい」 ☆「虹色のさめだよ」 ☆「大きくなったらたこになりたい。」</p>	<p>◎描いた絵を教師の所へ持ってきて、一緒に割り箸をつける。 ◎描いた絵を見て、どんなイメージで描いたのか会話をし、一人一人の思いを丁寧に受とめる。</p>
15	<p>○動作のアイデアを出し合ったり、海の生き物それぞれをイメージしながら、歌ったり踊ったりする。 ○替え歌をペープサートを使って発表したり、友だちの替え歌と一緒に歌いながら発表を見る。</p>	<p>◎お面をかぶることになりきって踊ることができるようにし、イメージしながら踊りを楽しむことができるように言葉かけをする。 「カニさんの歩き方はどんなかな。」「貝が開いたり閉じたりするのはどんながいいかな。」 ◎替え歌を画用紙に描いて、みんなで歌って楽しむことができるようにする。</p>
16	<p>【公開検証保育】 ○パネルシアターを楽しむ。「ちょっくん、かにさん」 ☆「くらげ、かわいい！」 ☆「たこはインチキだよー」 ☆「くじらはー？」「うみへびも連れてきてー」 ○みんなで「海」を歌い、「カニ」「貝」「タコ」「カモメ」の順に、歌ったり、踊ったりする。 ○替え歌をペープサートを使って楽しく発表する。 ○友達が作った替え歌と一緒に歌いながらペープサートを見る。 ☆友達のペープサートを見て、くじらにのって飛ばされる場面では「ウワー」という声があがる。</p>	<p>◎パネルシアターを導入し、子どもたちが楽しく海の生き物を想像し、活動にスムーズに入っていけるようにする。 ◎みんなで元気よく歌ったり踊ったりすることで海のイメージを膨らませることができるようにする。 ◎みんなで楽しさを共有しながら楽しむことができるようにする。</p>

3 活動の概要

(1)歌「♪みんなでうたっている」で遊ぼう



♪ねこさんのおともだち
みんなで うたっている
ニャンニャンニャンニャン
ニヤニヤニヤニヤーニヤー
うたってる ニャンニャン♪

①ペープサートを楽しむ。《教材の工夫》

教師がペープサートを見せながらみんなで楽しく歌った。子どもたちはすぐに興味を示し、自分でペープサートを動かしたり友だちが動かすのを見たりしながら楽しく歌った。

②《環境構成》

子どもたちが手に触れることができる所にペープサートとラジカセ、テープを用意。興味を持った子、活動時間の中では、前に出てきてくることができなかった子も、自主活動の時間に、自分たちでペープサートをして楽しむ姿が見られた。

「先生、順番どんなだった？」「分かるように紙に書いて貼ってちょうだい」などの声があったので、歌詞を表示した。オルガンに隠れてペープサートを出したり、順番を教えたり、自分たちで工夫して遊ぶ姿が見られた。

③動作を入れて歌ってみよう！ 《身体表現》

「ぞうさんはどんなふうにした方がいいかな？」「ぶたさんは？」子どもたちの発想を取り入れ、身体表現しながら楽しく歌った。



「先生、さるはこうだよ」「ううん、こうだよ」と、いろいろな動作が出てきたので、どの動作も間違いではなく、いろいろな動作があっていいことを伝えると、自分なりの動作を楽しんでいる姿が見られた。

④「もっとなにがいい？」《替え歌作り》

歌に出てくる8種類の動物の他に、どんな動物がいいかを問いかけ、みんなで替え歌作りをした。いろいろな動物を出し合う中で、うさぎやかたつむりなど、歌声を想像できないものが出てきた。教師が「じゃあ、うさぎは遊んでいるにしようか」と提案すると、嬉しそうな表情の子どもたち。いろいろな動作の替え歌を作り、身体表現をしながら歌って楽しんだ。

[子どもたちと一緒に作った替え歌]

♪うさぎの おともだち
みんなで あそんでいる
ピョンピョンピョンピョン
ピョピョピョピョピョンピョン
あそんでる ピョンピョン♪

♪カタツムリの おともだち
みんなで あるいている
ニョキニョキニョキニョキ
ニョキニョキニョーキー
あるいてる ニョキニョキ♪

♪こあらの おともだち
みんなで ねむっている
スヤスヤスヤスヤ
スヤスヤスーヤー
ねむってる スヤスヤ♪

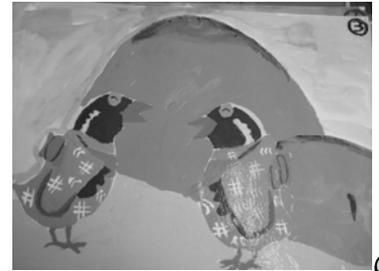
子どもの姿 「作ったよ。やっていい？」

教師が作ったペープサートで遊びを楽しんだ子どもたち。A子がペープサートを作って持ってきたのを見て、5, 6名の子がペープサート作りを始めた。出来上がったペープサートを自分たちで動かしたりして遊んでいたが、しばらくするとみんなの前でやってみたいという声が出てきた。クラスのひとときの時間、歌に合わせてペープサートをして見せ、恥ずかしさと嬉しさの混ざった満足気な表情であった。



(2) 歌「♪ヤンバルクイナのあかちゃん」で遊ぼう。

うた紙芝居を楽しみ、情景を思い描きながら歌う。《教材の工夫》



子どもの姿 「先生、ニュースみた？」

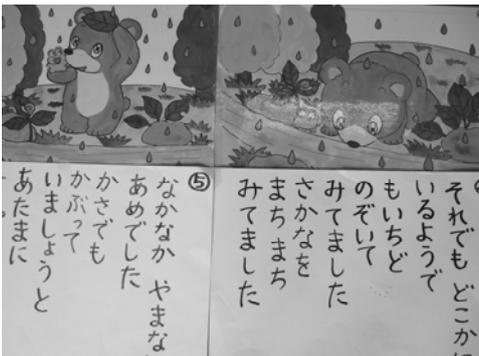
ヤンバルクイナのあかちゃんのうた紙芝居の後に、ヤンバルクイナが沖縄の貴重な生き物であるという話をした翌日、子どもたちから、ヤンバルクイナのニュースを見たという話題がでてきた。「ヤンバルクイナが車にひかれたってよ」「ニュースでやってたよ」「うん、見たよ」



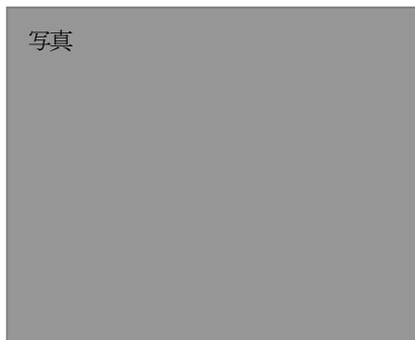
ヤンバルクイナが車にひかれることが多くなっている現状を伝えると、ニュースを見てなかった子も、翌日になって、「新聞にのってたよ」と伝えてくる子もいた。沖縄の自然、生き物への興味関心の芽生えを感じる出来事であった。

(3) 歌「♪あめふりくまのこ」で遊ぼう。

うた紙芝居を楽しみ、情景を思い描きながら歌う。《教材の工夫、環境構成》



写真



うた紙芝居の絵と歌詞を壁に表示したり、めくってみることができるようにより、子どもたちが興味を示す様子が見られた。

(4) 歌「♪とけいのうた」で遊ぼう。

①カスタネットを取り入れて楽しく歌う。《教材の工夫》

子どもの姿 「先生見て、こんなふうにもできるよ。」

歌の時間が終わった後、T男が「先生見て、こんなふうにもできるよ」と『コチコチカッチン』の部分で頭、頭、肩、膝と手で叩いてリズム打ちをして見せた。「おもしろい。すごいT君」とT男の真似をしながら一緒に歌っていると、数名の子が集まってきて、真似をしている。そこで教師が、時計の針を腕を使って表現する動作も加えてみた。すると、真似をして腕を上には伸ばしたり、横には伸ばしたりしているうちに、「先生こうしたら」と「♪おとなの針と子どもの針が、こんにちは、さようなら」の歌詞に合わせてでは右腕と左腕を重ねたり、離したりして表現する子が出てきた。みんなのアイデアを出し合った振付けで、即興で身体表現をしながら歌って楽しんだ。

②マラカス作り。《手作り楽器》

カスタネットや鈴など、楽器を取り入れながら歌う楽しさを味わった子どもたち。製作コーナーにの廃品(ペットボトル、プラスチックの透明カップ)を利用してマラカス作りに発展した。

子どもの姿 「これ、歌のときにやっぴい？」

自主活動の時間、廃品を使ってマラカス作りをしていた数名の子どもたち。出来上がったマラカスを振って遊んでいるうちに、K子が「先生、これ歌の時にやっぴい？」と聞きにきた。早速、歌の時間に手作りマラカスを取り入れて歌っていると、K男が、廃品コーナーからラップの芯を取ってきて、「先生、これでこしょうね」とマラカスを振っている子たちの前で、ラップの芯を振っていた。「分かった。K男は指揮をしているんだね」と言うと、「そうだよ、指揮する人だよ」と嬉しそうなK男。廃品を利用した、楽しいミニミニコンサートになった。



みんなの前で演奏して満足したK子たち。作ったマラカスを棚の上に置いておき、他の子にも貸してあげてを教師が提案すると、「壊してしまいそうだから嫌だ」という子もいた。しかし、みんなで大事に使うという約束をすると、「貸してもいいよ」と言ってくれた。

歌の時間が終わった後、早速、手にとって振ったりして音を楽しんでいる子どもたちの姿が見られた。

(5) 歌「♪そうだったらいいのにな」で遊ぼう。

①ペープサートを使ってイメージを膨らませながら楽しく歌う。《教材の工夫》



♪ママが子どもになっちゃって
わたしがかわりにお母さん
そうだったらいいのにな
そうだったらいいのにな♪

♪うちのおにわが
ジャングルで♪

写真

テープをかけてペープサートで遊ぶ子どもたち。

教師が作ったペープサートを模倣してペープサート作り。1番から4番まで丁寧に仕上げている。

②「そうだったらいいのにな・・・」の夢をみんなで出し合う。

「幼稚園のお庭がレストランだったら・・・」「幼稚園のお庭が動物園だったら・・・」など、みんなで夢を出し合う。「♪幼稚園のお庭がレストラン 毎日 ごちそう うれしいな♪」「〇〇先生が子どもになっちゃって かわりにみんなが先生だ♪」など、教師が替え歌を作って歌ったり、子どもたちの声を替え歌にするなどして「そうだったらいいのにな」と想像して楽しんだ。

子どもの姿「先生、きいてね」

「わたしのお家がマンションで マンションの外に犬がいた そうだったらいいのにな そうだったらいいのにな♪」

歌の時間の後、教師の傍にきて、小さな声で自分が作った替え歌を歌うK子。教師が「おもしろいね」というと嬉しそうな表情になり、自分が作った替え歌を口づさみながら友だちの所へいく姿が見られた。

③「4くみのおへやが海だったら・・・」という想像を膨らませて楽しむ。

「そうだったらいいのにな」といろいろ想像して遊ぶ楽しさを味わった子どもたち。共通のテーマを持つことで遊びが広がっていくことを期待し、テーマを「海」に向けて活動を計画した。海に関する絵本「スイミー」の読み聞かせをすると、「魚見たことあるよ」「泳いだことあるよ」と口々に話す子どもたち。教師が「そうだったらいいのにな」のメロディーに合わせて「♪4くみのおへやが青い海、魚がいっぱい嬉しいな♪」と替え歌を歌ってみたり、「4くみのおへやが海だったらどんなことして遊びたいかな」という問いかけをすると「くじらにのりたい」「バーベキューがしたい」など答え、夢を膨らませている子どもたち。「来週は、4くみのおへやを海にして遊ぼうね」と提案すると、「どうやって?」と期待している様子であった。



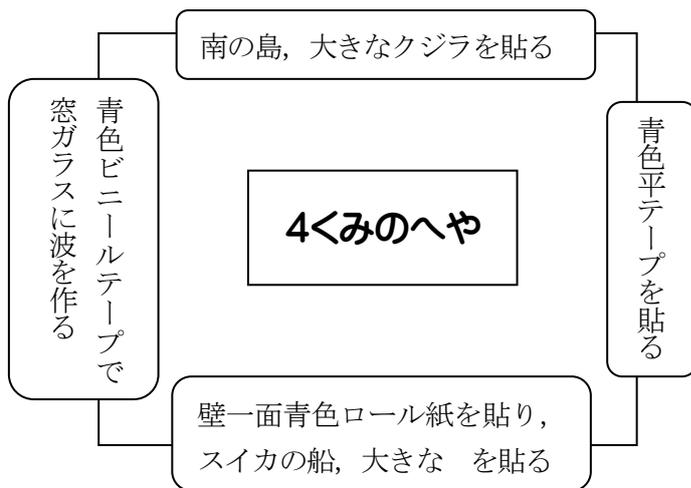
海に関する絵本の読み聞かせや図鑑を見ながら、みんなで海をイメージする。



海に関する絵本・図鑑コーナー
「いろいろな魚がいるなー」

④ 《環境構成》

海のイメージが膨らんでいくように、へやが海の雰囲気になるように環境づくり。子どもたちの声をもとに、へやの4面に、それぞれのテーマごとに壁面の下地作りをした。海の雰囲気がでるような工夫し、子どもたちが描いたり作ったりして貼る事で、イメージが膨らんでいくことができるようにスペースを十分確保した。



壁面作りをする。

「海パラ イスだね」

, 園してきて、へやの雰囲気が変わっているのを見て「びっくりした」という子。「わあ」とめている子。さまざまな声が聞かれた。

みんなでさっそく壁面作り。ペットボトルでタコを作ったり、魚の絵を描いて切り取って貼ったり、図鑑を見たりしながらはりきって取り組んでいる姿が見られた。



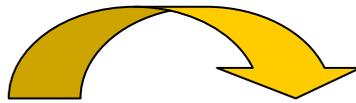
自分の絵を描き、切り取って貼る事で、クジラにのったり、船にのったり、夢を実現。壁面作りによって「4くみのおへやが海だったら」のイメージを表現していった。



写真

これ、すいかの船に貼
ってね。

描いた絵を切り取って好きな場所に
貼ってもらおう子どもたち。



にのったよ



ちょうちんあんこう
にのって海をお 歩



ちょうちんあんこうがでてくる歌が大好
きな大好きな 子の作品。

くじらにのって楽
しいな



くじらにのる子, 子どもくじらを描く
子, 楽しい壁面になった。

4くみの海で歌って踊ろう！♪海、カニ、貝、タコ、カモメ

○海は全員で歌う。友だちと手をつないだりして、大きい波、小さい波を表現。大きい波は大きくジャンプして元気よく。小さい波は動作が小さくなるので、自然に歌声も小さくなっていった。

○自分が好きな生き物を選んでお面作り。生き物のグループごとに分かれて、友だちと相したりしながら絵を描く姿が見られた。



お面をかぶることで、海の生き物になりきって踊る様子が見られた。「カニさんの歩き方はどうやったほうがいいかな」「タコさんの足はどうやって動かしたほうがいいかな」と、子どもたちのアイデアを取り入れながら、みんなで振り付けを加えながら楽しく踊った。

子どもの姿「お面作りたくない」

みんながお面作りに取り組む中、6名の男の子が「お面作りたくない」と取りかかる様子が見られなかった。理をたずねると、「踊りたくないから」との答えであった。みんなの前に出て踊るのが恥ずかしいと思っている様子であった。みんなの前で踊らなくてもいいので、好きなお面を作るように話すと、描き始めた。絵をみると嬉しそうな表情になり、お面作りを楽しんでいる様子であった。そして、できあがったお面をかぶって、恥ずかしそうにはあるが踊る姿が見られた。

子どもの姿「スーパーで貝をみたよ」

貝の踊りのの中で「♪ごもんが開いたり閉まったり♪」と、貝が開いたり閉じたりする様子を表現している場面がある。ある日、A君が「先生、スーパーで貝がこうやっているの見たよ」と腕を離したり、くっつけたりしている。前日、い物に行ったスーパーで、貝を見て歌を思い出したA君。貝を観察したら、踊りのように貝が開いたり閉まったりしていたということを話してくれた。歌の世界をイメージし、楽しんでいることを感じる場面であった。



子どもの姿「タコさんだーいすき」

タコの踊りを選んだ子。歌ったり踊ったりするのは少し恥ずかしそうな様子であった。しかし、遊びの時間にも作ったタコのお面をかぶっていたり、ペットボトルで作ったタコを大切に家に持ち帰り、翌日「日タコさんとったんだ」と嬉しそうに報告してくれた。「タコさんだーいすき」と話す子が描いた絵を見ると、子がタコさんと友だちと歌って踊って楽しんでいる様子が描かれている。踊る様子を見ていると、的に感じたのだが、子なりに、歌ったり踊ったりすることを楽しんでいるのだと感じた。



子どもの姿

周りの友だちが魚や自分の絵を描いて壁面に貼っている中でK子は、船にのった自分の絵を持ってきて「先生、これ貼りたくない」と言ってきた。理をたずねてみると「だって貼ったら好きな所にいけなくなるもん」と言って、切り取った絵を手を持って、いろいろな壁面コーナーで「♪4くみのおへやが青い海、お船にのってスイスイスイスイスイ♪」と歌いながら遊んでいた。

りの会でK子の絵と歌を紹介。恥ずかしがっているK子にかわって教師が動かしてみせると興味を持って見ている子どもたち。割り箸をつけるとペープサートになることを知らせ、「みんなも作ってみよう」と提案すると喜ぶ子どもたち。K子の作品がペープサートづくりのきっかけになった。

「4くみのおへやが海だったらいいのにな」自分のイメージを絵に描いてペープサート作り。

壁面作りや歌など、これまでの活動で「4くみのおへやが海だったら・・・」というイメージを膨らませてきた子どもたち。「そうだったらいいのにな」のメロディーを頭に思い浮かべながら、「4くみのおへやが海だったら」という自分のイメージを絵に描いてペープサート作りに取り組んだ。



写真

わあ、楽しそうだね

これまで膨らませてきた海のイメージから、自分のイメージを絵に描いて表現。友だちと会話をしたりしながら、一生懸命取り組む姿が見られた。自分が描きたい絵に合わせた大きさの画用紙を選び色とりなども工夫している様子が見られた。

描いた絵を切り取って、先生に手伝ってもらいながら割り箸をつけて、ペープサートが完成。

ペープサート作りをしながら、一人一人と会話を交わし、子どもたちの絵に込められた思いを受け止めていった。

替え歌をペープサートで発表。

出来上がったペープサートを発表してもら
うが、みんなに聴こえるように歌うのはし
い様子であった。



自主活動の時間などを利用して教師が一人
一人の替え歌を聞き取り画用紙に歌詞を描い
た。ペープサートと一緒に歌詞を紹介し、み
んなで歌いながらペープサートを楽しめるよ
うにした。

写真



子どもの姿

「先生、続けてからもっと長くして」

男は歌の時間になると「 だな」「歌いたくないな」などということが多かった。そこ
で、男が歌の時間に楽しさを感じるためには、まず、教師との信 関係が必要であると考え、
男のよさを見つけ めながら援助していくように めていった。描いたり作ったり、踊
るのを嫌がることもあったが、活動を めていく中でいろいろなアイデアを出してくれるの
で、男の発言を丁寧に受け止め、活動に取り入れるようにしていった。次第に歌の時間を期
待し楽しみにしている様子が見られるようになった。ペープサートづくりでも、作る過程では
的であったが、友だちの発表を興味を持ってみている様子が感じられた。

ペープサートの発表では「そうだったらいいのにな」を一人ずつ発表していたのであるが、
男が「続けてからもっと長くして」と提案。クラスみんなに聞いて見ると、「4 番まであつ
た方がいい」ということだったので、次の時間には 4 名続けて発表できるように曲を用意して
おくことを伝えると 男は満足した表情であった。

4 公開検証保育

(1) 活動名 「4 組のおへやが海だったらいいのにな」

(2) 活動設定の理

① 教材観

「内面にある世界を、なんらかの感動を伴って、ことば、動き、音、色、形などの手段で、外部に出す
ことが表現であり、保育者が意図的に刺激を与え、幼児の内面にある世界を感情の とともに外部に出
させるようにする活動が表現活動である。」保育実践用語事典より抜

「海、カニ、貝、タコ、カモメ」は、子どもたちが歌ったり踊ったりすることを通して、海へのイメージ
を持つことができる歌であると考え。元気よく歌ったり、生き物をイメージしながら考えた振り付けを
出し合ったりして、みんなで、楽しさを共有することができるであろう。

「そうだったらいいのにな」は、子どもたちが夢を思い描いて楽しく歌うことができる歌であると考え。
「そうだったらいいのにな」の歌詞から、想像しイメージを膨らませていく楽しさを味わい、替え歌をす
るおもしろさを感じることができるであろう。「そうだったらいいのにな」から、「4 くみさんのへやが

海だったら」とイメージを膨らませ、ペープサートで表現することによって、自分のイメージを伝える喜びを味わうことができるであろう。そして、友だちのペープサートを見ることによって、いろいろなイメージがあることに気づいたり、自分のイメージを伝えたいという気持ちを持つことができるであろう。

②幼児観

入園して3月、集生活のきまりが分かり、先生や友だちと一緒に思ったことや考えたことを出し合ったり、相して遊ぶ楽しさを味わうことができるようになる時期である。友達と一緒に楽しく歌ったり、んで表現したり、作ったものを遊びに取り入れていく姿も見られる。しかし、思ったことや考えたことをどう表現していいかわからずっている子、恥ずかしがっている子、んで表現しようとしないう子、友だちの表現に関心がい子もいる。教師や友だちからの表現を受け止め、自分なりの表現を楽しむための、ため込みの時期であると考ええる。

③指導観

「そうだったらいいのにな」の歌から子どもたちのイメージを膨らませ、イメージを引き出し、受け止め、表現できるように援助していった。まず、子どもたちが海の雰囲気を楽しむことができるように環境構成し、みんなで一緒に4組のへやを海にしていく楽しさを味わった。さらに、海に関連する歌を歌ったり、踊ったりすることによって、海のイメージを膨らませることができるようにした。そして、自分のイメージを、「そうだったらいいのにな」のメロディーに合わせた替え歌で頭に思い浮かべながら、絵に描いてペープサート作りをしていった。本時は、これまでの活動を表現し合う場である。表現する楽しさを味わい、友だちの表現を受け止め、イメージを共有することによって豊かな感性と表現する意欲へとつながっていくと考える。

4 公開検証保育指導案

平成18年7月5日(水)

沖縄市立泡瀬幼稚園 4組

男児15名 児15名 計30名

幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんに、歌や踊り、やペープサートを見せるのを楽しみにしている。 ・出来上がったペープサートを発表するのを楽しみにしている子もいるが、恥ずかしがっている子もいる。 	ねらい 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・歌ったり踊ったりペープサートをすることによって、楽しさを共有する。 ・自分のイメージを表現する楽しさを味わう ・友達と一緒に楽しく歌ったり踊ったりする。 ・替え歌をペープサートを使って楽しく発表する。 ・友達が作った替え歌と一緒に歌いながらペープサートを見る。
授業仮説	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や踊りを、元気よく歌ったり踊ったりすることによって、友だちと楽しさを共有することができるであろう。 ・ペープサートを発表したり、見たりすることによって、表現する楽しさを味わい、表現する意欲へとつなげていくことができるであろう。 		
時間	○予想される幼児の活動		◎教師の援助と配慮 ☆環境構成

10 15	○手あそびをする。 「さかながはねた」「よよさん」 ○パネルシアターを楽しむ。 うたあそび「ちょっくんかにさん」	◎楽しい雰囲気で行うことができるようにする。 ☆パネルシアター を用意する。 ◎楽しく海の生き物を想像できるようにする。
10 25	○みんなで元気よくうたったり、踊ったりする。 「海」 ・好きな生き物になって踊る。 「カニ」「貝」「タコ」「カモメ」	◎海の生き物になりきって踊ることができるように声かけをする。 ◎教師も一緒に歌いながら、みんなで元気よく歌うことができるようにする。 ☆踊りが終わり次第、お面を片付けることができるように を用意する。
10 35	○ペープサートの発表の仕方、見方を話し合う。 ○「そうだったらいいのにな」の曲に合わせて、自分が作った替え歌をペープサートを使って発表する。 観察 ・友達のペープサートを一緒に歌いながら見る。 観察	☆ペープサート を用意する。 ◎友達のイメージのおもしろさに気づくことができるようにする。 ◎発表する子の気持ちになって見ることができるようにする。 ◎子どもが作った替え歌を画用紙に書いて準備し、それを見せながら、みんなで一緒に歌って楽しむことができるようにする。
10 55	○楽しかったこと、思ったことを話しあう。 発言	◎発表した時の気持ちや友達の発表を見て感じた気持ちを受け止める。
11 00	○片付けをする。	
価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気よく歌ったり踊ったりすることができたか。 観察 ・ ペープサートを発表する楽しさを味わうことができたか。 観察 発言 ・ 友だちの表現に興味を持って見ることができたか。 観察 発言 	

公開検証保育の様子

①パネルシアター

♪ちょっくんかにさん

写真

♪ちよきちよきちよっくん
こがにさん ひとでさんと
じゃんけん ん♪

「どっちが つかな？」の問いかけに「ひとでさん」など元気な答え。子どもたちとのやりとりを楽しみながら めていった。

②海, カニ, 貝, タコ, カモメの歌を歌って踊ろう。

- ・海の歌は全員で元気よく歌って踊って楽しんでいた。
- ・カニ, 貝, タコ, カモメはグループごとにみんなの前に出てきて踊った。見ている子どもと一緒に歌いながら楽しんでいた。

写真

♪うみだ うみだ ひろいな♪



子どもの姿

踊るのを恥ずかしがってお面作りをしぶっていた男。いつもは「嫌だな」など声にだしたりするのだが、この日は、張した表情であるが、しっかり踊り、満足した様子であった。友だちに「ちゃんと踊ってよ」と声をかけている場面も見られた。



子どもの姿

元気がいいタコグループだが、みんなの前に出てきた恥ずかしさから、どの子ども踊る置が後ろよりにになっている。するとR子が、の友だちをうながしながら、前にでてきた。それにつられて他の子たちも少しずつ前に出てきて踊る姿が見られた。

歌って踊って、みんなの前で表現することを楽しんでいる様子を感じられた。



子どもの姿

虹色の貝のお面を作った子。踊りの中で、パートナーと手をつないで回る場面で、のR男にパートナーがいらないことに気付いた。子がR男に手を伸ばして3人で踊ると、R男の嬉しそうなお姿が見られた。

③「4くみのおへやが海だったらいいのにな」の替え歌をペープサートで発表する。

写真



(子どもたちの作品)



くらげになって およいだら
にじいろさかなが あらわれた
そうだったらいいのにな
そうだったらいいのにな ♪



4くみのおへやが あおいうみ
たこさんと あそんでたら とばされた
そうだったらいいのにな
そうだったらいいのにな ♪

5 公開検証保育の考察

活動仮説

○歌やを、元気に歌ったり踊ったりすることによって、友だちと楽しさを共有することができるであろう。

○ペープサートを発表したり、見たりすることによって、表現する楽しさを味わい、表現する意欲へとつなげていくことができるであろう。

(1) 元気に歌ったり踊ったりすることができたか。

・踊りは、みんなで踊る「海」と好きな生き物を選んで踊る つの方法を取り入れた。

クラスみんなで踊ることにより、クラスの一員という連帯感と海の雰囲気を楽しむことができたのではないかと思います。

グループで踊る活動は見るお客さんがいることで、見せるということを意識し、どう踊ろうかということを考えながら踊ることになったと思う。

・手作りお面をかぶることで、みんなの前で踊る期待へとつながったようであり、全体的に楽しく歌ったり踊ったりしている様子が見られた。

・グループで踊る時、出たり ったりする合図を合ったり、友だちと一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しんでいる様子が見られた。

・全体で踊る時に、 そうだったので、広がった方がのびのびと踊れることを子どもたちに伝え、思いきり踊りを楽しめるような配慮が必要であった。

(2) ペープサートを発表する楽しさを味わうことができたか。

・ペープサートを作りながら、教師が一人一人がもっているイメージを、受け止め、楽しさを共感したことにより、「みんなの前でも発表したい」という気持ちが持てたのではないかと考える。

・替え歌をみんなが歌ってくれることによって、

安心感が持てたであろう。

- ・8名の子が発表をした。ペープサートの動かし方を自分なりに工夫する様子などが見られた。
- ・発表する前のドキドキしている表情、終わった後の満足した表情から、発表する楽しさを味わうことができたと思われる。
- ・感想として「おもしろかった」「またやりたい」という声が聞かれた。
- ・ペープサートの発表では、12名発表したい子がいたが、時間の都合上、8名の子が発表し、4名は次の日に発表してもらった。「発表したい」という子の気持ちを受け止めつつ、子どもたちの集中しできる時間とのね合いのしさを感じた。

(3) 友だちの表現に興味を持つてみることができたか。

- ・友だちのペープサートを見て、「♪とばされた」という場面では「うわー」という声が聞こえたりするなど、楽しんでいる様子が見られた。
- ・歌詞を画用紙に書いて表示することにより、みんなでイメージを共有しながらうことができたと思われる。
- ・ペープサートと替え歌を全員が作ることはできなかったが、友だちの発表をみて、一緒に楽しむことができた。この経験をしたことによって、今後の手立てを工夫することによって、表現への意欲へとつなげていくことができるであろうと考ええる。

VII 研究の結果と考察

本研究はテーマを「表現する意欲と豊かな感性を育てる援助のあり方 歌からイメージを膨らませて遊ぶ活動を通して」と設定し、基本仮説を「歌からイメージを膨らませて遊ぶ活動を通して、自分なりに表現する楽しさを味わうことによって、表現する意欲、豊かな感性が育つであろう。」とし、研究をめてきた。さらに基本仮説をより具現化した3つの具体仮説を立て、理論的研究を行い、検証保育を実践してきた。そこで、3つの具体仮説を検証することにより、本研究の考察とする。

1 具体仮説1の検証

幼児の発達の特性と表現の意義を捉え、環境構成を工夫することにより、幼児は、感じたり、考えたり、イメージを膨らませていくことができるであろう。

幼児の発達の特性と表現の意義を捉えることによって、幼児の表現の受け止め方、表現活動の援助のあり方の方向性を確かにすることができた。また、幼児がどのように歌に親しんでいるかを保護者のアンケート調査を行い、保育の中で幼児の思いを受け止めながら、実態把握をしていくことにめた。それらをふまえて活動計画を作成し、環境構成の工夫を5点行い、幼児の姿を捉えていった。

- (1) 歌紙芝居を表示したり、めくって遊ぶことができるように置いておくことによって、絵や文字を見て歌ったり、めくって遊ぶ姿がみられた。表示されているものに目をとめたり、興味を持ってかかわることで、子どもたちは、感じたり、考えたりするきっかけとなったと考える。一人でまたは気の合う友だちと、紙芝居の世界を楽しんでいる姿がみられた。
- (2) 廃品コーナーに製作に遊びに必要なものを用意しておくことによって、マラカス作りが始まった。

鈴やカスタネットの経験から、音が出るものに興味を持っていた子どもたちが、廃品コーナーで自ら工夫して、マラカスを作り、歌の時間に取り入れていった。また、そのマラカスを手にとって遊ぶことができるコーナーをつくることにより、友だちが作ったマラカスに他の子ども興味を持ち、振って遊ぶ姿や友だちが音を鳴らしているのを見ている姿がみられた。幼児の活動を見通し、製作に必要なものを用意しておいたことで、遊びが広がっていったと考える。

- (3) ペープサートをいつでも遊ぶことができるように置いておくことにより、子どもたちは興味を示し、触れたり、したり、模倣して遊ん

だりする姿が見られた。教師の作ったペープサートでおもしろさを味わったことにより、自分たちで作って遊んだり、後の活動「4くみが海だったらいいのにな」のペープサート作りに積極的に取り組む姿につながっていった。

- (4) 海にかんする絵本・図鑑コーナーをつくり、子どもたちが興味関心を持つことができるようにした。

絵本や図鑑を見て想像している様子が見られたり、絵を描く時の考にしている様子がかがわれた。壁面の絵を描くことやペープサート、替え歌づくりのようになった。

- (5) 「4くみのへやが海だったいいのにな」の活動では、歌から膨らませたイメージを壁面づくりによって表現していった。活動に合った環境構成を工夫することにより、子どもたちは、刺激をうけたり、自らかかわり、感じたり、考えたりしながら、イメージを膨らませていくことができた。

2 具体仮説2の検証

歌を聴いたり歌うことを通して、先生や友だちとイメージを共有しながら表現を交わし合うことによって、豊かな感性が育つであろう。

6月始めの検証保育開始当時、「みんなで歌をうたったり踊ったりする活動は楽しいか」という問いかけに、「楽しい」と答えた子は、クラスの半数であった。あまり楽しくないと答えた子の理由は「なんぎ」「好きな遊びがしたい」「自分で遊びたい」などであった。検証保育終了時の7月に同じような問いかけをしたところ、「楽しい」と答えた子が3割増え、クラスの8割であった。検証保育を始めた当初は、歌の時間への関心が子どもによってそれぞれであり、毎時間楽しみにしている子もいれば、興味を持っていない様子の子もいた。子どもたちの声に耳を傾け、思いを取り入れることによって、一人一人が楽しさを味わうことができるようになっていった。

また、幼児の音楽的発達をふまえ、幼児の実態

に応じながら、教材を工夫していった。

楽器を取り入れることにより、興味を示し、歌の時間を楽しみにするようになった子、楽器から身体表現、作って遊ぼうなど、遊びを広がりが見られた。

ペープサート、歌の紙芝居など、耳で聴いて、目で見て楽しむことにより、子どもたちの興味をひきつけ、イメージが膨らんでいったと思われる。

歌を聴いたり、うたうことを通して、思ったこと、感じたことを伝え合ったり、イメージや楽しい時間を共有する楽しさを感じ合えた様子が見られた。みんなでイメージを共有する楽しさを味わったことは、「4くみがうみだったらいいのにな」と、共通のテーマへの活動へ積極的に取り組む姿になって見られたと思われる。

また、先生や友だちのイメージを見たり聴いたりすることによって、模倣して遊んだり、自分なりにイメージを膨らませるなど、豊かな感性が育ちつつあることを感じた。

3 具体仮説3の検証

歌から膨らませたイメージを描いたり作ったり動いたりして遊ぶことを通して表現する楽しさを味わい、自分なりに表現する意欲が育つであろう。

検証保育を重ねていく中で、教師の模倣、友だちからの刺激、みんなと一緒に表現する楽しさを味わい、「4くみが海だったらいいのにな」の活動では、それぞれが、いろいろな方法で自分なりに表現して楽しむ姿が見られた。

壁面作りでは、用意された魚の型紙に好きな色を切り取って貼っている子、自分で魚を描いている子、カニやウミビを描いている子、大きい絵、小さい絵、さまざまあり、教師に、貼りたい場所を伝え、好きな場所に貼る姿が見られた。さらに、自分の絵を描いて、スイカの船にのったり、にのったりしている子など、自分のイメージを壁面で表現することを楽しむ姿が見られた。そして、「カニ」「貝」「タコ」「カモメ」の中

から好きな生き物を選び、お面を作り、踊って楽しむ姿からは、自分が選んだ生き物になりきって楽しむ様子が感じられた。壁面、踊りで、海の雰囲気を感じて、ペープサート作りに取り組むことで、どの子どもも、喜んで自分のイメージをペープサートを作って表現する姿が見られた。替え歌を作って発表できた子は、13名とクラスの4割であるが、ペープサートを作ったときの会話からどの子どもも、自分なりのイメージを持っていると感じた。自分からみんなで前で発表できるように、どう引き出すかが今後の課題であるが、壁面作りや踊り、ペープサート作りをしている時の子どもたちの楽しそうな表情から、子どもたちなりに、表現する楽しさを味わい、自分なりに表現する意欲が育ってきていると考える。

IX 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

表現する意欲と豊かな感性を育てる援助のあり方をテーマに研究をすすめる中で、下のような成果があげられる。

- ・「表現」についての理論的研究を深めることにより、表現の指導・援助のあり方の充実を図ることができた。
- ・教材の工夫により、子どもたちが歌に興味関心を持ち、イメージを膨らませていくことができた。

- ・環境構成の工夫により、幼児が自らかかわって、表現活動を楽しむ姿が見られた。

- ・テーマに関連して歌、踊り、製作、言葉など、いろいろな表現を楽しむことで、表現の楽しさを十分に味わうことができ、表現への意欲へとつながっていった。

- ・表現活動に子どもたちがどう加していくかという視点から一人一人の内面をとらえるようにしていったことで、子どものよさを伸ばすことができた。

- ・1つのテーマにみんなでイメージを出し合って活動することで、先生や友だちと感動を共有し、心を通い合わせることができた。

- ・教師や友だちと表現を交わし合うことによって、さまざまな感情を味わい、豊かな感性が育っていったと思われる。

- ・表現活動を通して、文字や自然への関心、先生や友だちとのかかわりなど、他の領域と関連しての育ちも多く見られた。

2 今後の課題

一人一人が自信を持って表現することができるよう、表現活動の方法を工夫していく必要がある。また、幼児の表現の受け止め方、教材研究、指導・援助のあり方などを今後も探究していきたいと考える。

〈主な参考文献・引用文〉

- ・ 上 2006 『保育用語辞典』 ミネル 書
- ・ 十 敏 2005 『たのしい紙芝居アイデア』 社
- ・ 一 2004 『保育内容 表現』 ミネル 書
- ・ 玉 美知子 修 2001 『子どもから学ぶ保育活動 表現』 学事出 社
- ・ 文部省 1999 『幼稚園教育要領解説』
- ・ 小 上 小 豊 神長美 子 1999 『新幼稚園教育要領の解説』 ぎょうせい
- ・ 上 高 自子 正行 1999 『幼稚園教育要領』 レーベル館
- ・ 相 保正 1999 『あたらしい音楽表現』 音楽 友社
- ・ 下 男 一 1990 『幼児の音楽と表現』 社